徳洲会感染管理部会

手指衛生キャンペーン実施

今年度から遵守調査を通年化

徳洲会感染管理部会はグループ病院・施設を対象に、感染症が流行しやすい９月から11月にかけて手指衛生キャンペーンを実施している。同キャンペーンでは、手指衛生を推進する標語をグループ病院から募集し、ポスターを作成・配布、院内・施設内に掲示し手指衛生遵守のための啓発活動を強化する。2014年から取り組んでいる。また、昨年度まではキャンペーン期間中を対象としていた手指衛生遵守調査を、今年度から通年で実施することを決定した。感染対策の質向上・強化が目的だ。

「守る手 治す手 きれいな手」

応募のあった標語から優秀賞に選んだのは、さいたま記念病院の「守る手 治す手 きれいな手」という作品。四街道徳洲会病院（千葉県）の「推し活も、手指衛生も、継続だ」を特別賞に選出した。今年度は１施設２点までの応募で、67病院から129点の応募があった。



優秀賞に選ばれたさいたま記念病院では、受付カウンターにポスターを掲示。菅原SE（右）と中川副主任



優秀賞の標語で作成したポスター



特別賞のポスターには徳洲会体操クラブの選手が登場

野崎徳洲会病院（大阪府）、大隅鹿屋病院（鹿児島県）、鹿児島徳洲会病院のデザインにより、優秀賞と特別賞の２パターンのポスターを作成、グループ病院・施設に配布した。

ポスターには標語に加え「WHO（世界保健機関）手指衛生５つの瞬間」を記載。とくに手指衛生が求められるのは、①患者さんに触れる前、②清潔／無菌操作の前、③体液に曝露された可能性のある場合、④患者さんに触れた後、⑤患者さん周辺の物品に触れた後――の５つの瞬間だ。

同キャンペーンを担当している同部会北海道ブロック長の井畑理沙・札幌徳洲会病院感染管理室師長（感染管理認定看護師）は「応募作のなかから、部会長、副部会長、専門部会代表からなる執行部メンバーが投票により選出しました。医療従事者の手は、治療や看護、薬や検査、時には愛情など、さまざまなものを届けます。その手が、手指衛生されたきれいな状態で患者さんに届けてほしいという思いで、優秀賞を選出しました」と説明する。

選考基準は、内容が具体的であり手指衛生行動に結び付くもの、使用されている文言がわかりやすく的確であること、親しみやすく記憶に残るものであること、過去３年の標語に類似していないことだ。

一方、今回の特別賞は、21年の新語・流行語大賞にノミネートされた「推し活」という単語をうまく標語に取り入れた点が、“なじみやすさ”として高い評価を受けた。特別賞のポスターは、徳洲会体操クラブの協力を得て、杉野正尭選手（キャプテン）、北園丈琉選手（副キャプテン）、岡慎之助選手の写真を用いたデザインとなっている。

「部会から徳洲会体操クラブに打診したところ、米田功監督をはじめ選手の皆さんに快諾をいただき、新しいユニフォームで撮影してくれました。躍動感のあるポスターに仕上がったと思います。ぜひ多くの方々に推し活と同じ熱量で手指衛生も継続してほしいと思います」（井畑師長）

優秀賞の標語を考案したのは、さいたま記念病院情報システム課の菅原利雄システムエンジニア（SE）。「看護師さんが日頃、手洗いを頻繁に行っている姿を目にするなかで、ぱっとひらめいてできた標語です。優秀賞に選ばれ驚きました。手指衛生の啓発に少しでも貢献できればうれしいです」とほほえむ。

同院の中川加央里・看護副主任（感染管理認定看護師）は「院内から５つの標語が集まりました。大久保久美子・看護部長と話し合い、シンプルでわかりやすい菅原SEの標語を当院からの応募作（２作品）のひとつに選びました」と明かす。

「待合室などにも掲示を」

手指衛生の実施状況の把握や改善のため、今年度から「手指衛生遵守調査」を通年化。手指衛生５つの瞬間に関して、グループ全病院で直接観察法と呼ばれる手法で調査を行う。

井畑師長は「感染対策の根幹である手指衛生は日常的に実施することが必要です。キャンペーンというスポットでの観察では一時的な改善にとどまってしまうため、通年で実施することにしました。継続的なPDCA（計画→実行→評価→改善）サイクルを構築し、手指衛生が習慣化する環境づくりが目標です。ぜひ待合室などにもポスターを掲示し、医療従事者だけでなく患者さんとともに手指衛生を実践できる病院を目指していただきたいです」と呼びかけている。

通年化にともない、調査の負担軽減を図り継続性を担保するため、病床規模別の調査数を設定した。

徳洲会医療安全管理部会

「重大事象」テーマにスキルアップ研修開く

徳洲会医療安全管理部会は９月１日、グループ全体の医療安全活動の質向上のため、「医療法改正に対応する重大事象A・B類型の実践『判断できる』『集められる』『改善につなげられる』医療安全管理者を目指して」をテーマにスキルアップ研修を開催した。



重大事象A・B類型などについてレクチャーする辰巳部長

講師は八尾徳洲会総合病院（大阪府）の辰巳陽一・医療安全管理部長兼同部会顧問（近畿大学医学部・近畿大学病院客員教授）。

全国のグループ病院の医療安全管理担当者を対象にオンライン形式で行い、72施設から約140人が参加した。

今年４月の医療法改正では、「患者への影響度」と「回避可能性」の観点から重大事象をA類型（患者への影響度が大きく、確実に回避する手段が普及している事象）とB類型（患者への影響度が大きく、回避可能性は必ずしも高くない事象）に分類し、医療機関に把握・検証などを義務付けた（他に「患者への影響度が比較的小さい事象」としてC類型がある）。再発防止の推進が狙いだ。

研修の前半では、事故対応の目的や進め方、報告のしやすさと心理的安全性、事実確認・聞き取り・記録などについてレクチャー。後半は各分類の定義や対応など詳説し、「分類はゴールではなく“学習する組織”への入り口です。重大事象の対応は、個人を責めるのでなく、客観的事実・構造的要因・改善可能な条件を徹底して見ることが肝要です」と呼びかけた。



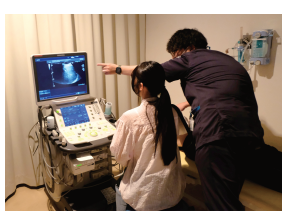
ブロック長会議後にオンラインで各施設と結び研修を実施

部会長の西村和恵・吹田徳洲会病院（大阪府）医療安全管理室長は「法制度の基本や対応方法などについて共通認識を得ることが今回の目的でした。ぜひ受講者の方々には各病院で、多職種でディスカッションしながら改善活動を続けてほしいです」と期待を寄せた。

初のオープンホスピタル

八尾病院が中高生・保護者対象に

八尾徳洲会総合病院（大阪府）は９月19日、医療に興味ある中高生と、その保護者を対象に初のオープンホスピタルを開催した。冒頭、原田博雅院長が登壇し、参集した71人に「（このイベントを通じ）少しでも、私たちの仕事に魅力を感じてもらえたら。当院に関わらず地域の医療界全体の活性化につなげたいと思っています」と声をかけた。



恐る恐る超音波検査を実施する学生



進路相談会にも多くの学生が参加

また、同院で働く非常勤を含めた約1,300人の職員と関係業者、475人の入院患者さんを“ひとつの村”のようなものと例え、その村には医師、看護師などメジャーな職種だけでなく、多職種が働いており、「まず多くの職業があることを知ってほしい」と訴えた。

その後、各部署を紹介する動画を供覧したあと、院内14職種が実際に働く現場を見学した。学生たちは興味ある部署に立ち寄り、スタッフから説明を熱心に聞いたり、検査など体験したりした。最後の質問・進路相談コーナーは自由参加だったが、多くの参加者が残り、各ブースに足を運んでいた。

3000人来場し大盛況!

野崎病院が病院祭



医療機器体験ブースで四苦八苦しながら楽しむ子どもら

野崎徳洲会病院（大阪府）は９月６日、大東市内で病院祭を開催し、午前と午後を合わせて約3,000人が訪れ、大盛況となった。午前の部では、「ちびっ子向けブース」で医療機器・看護師体験やお菓子釣りなど、「高齢者向けブース」で血管年齢測定やリハビリテーション機器体験などを行い、幅広い世代で賑わった。

午後の部では、山田貴之・副院長兼循環器内科センター長と宮下史寛・心臓血管外科部長が医療講演を実施。参加者からは「わかりやすい内容で健康への理解が深まった」など感想が聞かれた。地域の大阪桐蔭高校吹奏楽部によるコンサートも会場を大いに沸かせた。

病院祭実行委員長の柴田泰雄・放射線科副技師長は「当日は天候にも恵まれ、多くの方々にご来場いただきました。午前のブース、午後の医療講演やコンサートともに楽しんでいただき、地域の方々に当院を知っていただく機会になったと思います」と手応えを語っていた。

八尾病院の公式イメージキャラ「やおとくちゃん」で親しみを

八尾徳洲会総合病院（大阪府）は公式イメージキャラクター「やおとくちゃん」を制作した。９月19日の一般向けイベント「第１回オープンホスピタル」開催に合わせ、事前に職員から募集。18の応募作品から、職員の投票で決定した。「やおとくちゃん」は、帽子に地元・八尾市の市木であるイチョウ、マントには市花の菊の葉をあしらい、体を特産品の枝豆と若ごぼうをイメージした濃い緑色のデザインにした。

院内保育室で病児保育を担当する武田久美保育士がAIツールを使い、修正を重ねて仕上げた。「診察室に入るだけで泣いてしまう子どもたちに、病院は怖くない場所だと伝えたい思いでつくりました」（武田保育士）。

今後は院内外の広報や採用活動、医療講演などで活用する予定。企画を取りまとめた平野泰弘・事務次長は「やおとくちゃんを通じて病院を一層身近に感じていただき、地域の方々とのつながりを深めるきっかけにしていきたいです」と意気込んでいる。



やおとくちゃんを掲げる平野・事務次長（左）と武田保育士